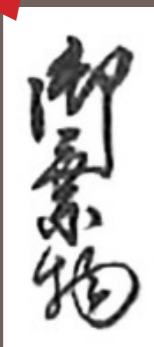


市史編さんのキホン 「古文書解読」に挑戦しよう！



Q. この3文字、
何と読む？



「古文書解読」と聞くと、難しそうに感じますが、実は意外と簡単。コツさえつかめばスラスラ読めるようになります！

ちなみに、上図は今から約190年前の遠野南部家のお殿様の行列を絵にしたもので、市立博物館に展示されています。

この3文字は「御乗物(おのりもの)」と書かれていて、当時、お殿様は引き戸がついた御乗物に乗って外出していたことを、伺い知ることができます。古文書って、おもしろいですねえ。

おのりもの
「御乗物」でした！

A.

↓昭和52年に発刊の宮守村誌
と昭和49年発刊の遠野市史



これが市史
(村誌)です！



遠野の歴史と文化を後世に残す、「遠野市史」。市は市民の皆さんと協力し、平成27年度から「遠野市史」の編さんに取り組んでいます。知られざる「市史編さん」の現場をご紹介します。

私が「市史編さん」について
をご紹介します！



遠野南部家公認！
市史編さん
マスコットキャラクター
おんな戦国大名
せいしんに
清心尼さま

歴史を編む

歴史に関する資料や記憶は、個人のもとにあるだけでは、やがて色あせ、失われてしまいます。そこで市は、遠野の歴史を振り返り、「永遠の日本のふるさと遠野」として後世に引き継ぐべき資料を収集・整理しながら、遠野の歴史を編む「市史編さん事業」に乗り出しました。平成27年度には、遠野文化研究センターに市史編さん室を設置。10年間の計画で、市民と連携しながら活動を展開しています。

歴史を編む

歴史に関する資料や記憶は、個人のもとにあるだけでは、やがて色あせ、失われてしまいます。そこで市は、遠野の歴史を振り返り、「永遠の日本のふるさと遠野」として後世に引き継ぐべき資料を収集・整理しながら、遠野の歴史を編む「市史編さん事業」に乗り出しました。平成27年度には、遠野文化研究センターに市史編さん室を設置。10年間の計画で、市民と連携しながら活動を展開しています。

今こそ、市史が必要！

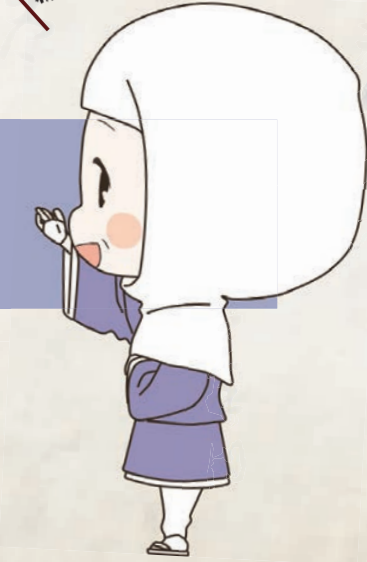
これまで、「遠野市史」は昭和49年から52年にかけて全4巻を、「宮守村誌」は昭和52年に刊行されています。それぞれ刊行から40年以上経過。古文書の調査方法や遺跡発掘調査の技術が飛躍的に進歩したことから、新たな研究成果や解釈を加える必要があります。さらに、平成17年の市村合併や東日本大震災などを経て、後世に残すべき事柄を記録する必要も出てきました。

「市史」とは、その土地で生活してきた人々が残した手紙や書物から、歴史をまとめた書物のこと。沿岸と内陸部を結ぶ交通の要衝として古くから栄えてきた遠野は、豊かな歴史と文化を育んできました。これらは学術的価値が高く、遠野に住む人の「遠野らしさ」を形づくっています。市史は、「遠野らしさ」のルーツを知ることができる、大切なものなのです。

市史って？

「市史」とは、その土地で生活してきた人々が残した手紙や書物から、歴史をまとめた書物のこと。沿岸と内陸部を結ぶ交通の要衝として古くから栄えてきた遠野は、豊かな歴史と文化を育んできました。これらは学術的価値が高く、遠野に住む人の「遠野らしさ」を形づくっています。市史は、「遠野らしさ」のルーツを知ることができる、大切なものなのです。

編さんの流れです！



一 方針検討



遠野の歴史に詳しい大学教授や市民の人たちに集ってもらい、どのような本にするかや調査方法など、編さんの方針を話し合います。遠野の歴史に関する資料は膨大なため、市史に載せる資料やその内容を決定します。

二 資料収集



さまざまな場所に出向き、資料を収集・整理し、後世に伝えるために保存・管理を行います。現在博物館で所蔵している資料だけでなく、各家庭に眠っている古い写真・文書なども資料になる可能性があります。

三 調査解読



遺跡などの発掘調査や研究が進んだことで、以前の市史(村誌)とは異なった解釈が生まれています。最新の情報にするため、新たな資料だけでなく、調査済みの資料も再調査しています。

四 編集作業



集められた資料や調査した内容をもとに、執筆を行います。現代編、通史編、民俗編、資料編の4編を平成39年までに発刊する予定です。読みやすく、市民に活用してもらえる市史を目指します。



市史ができるまで



始まったばかりの市史編さん。遠野の歴史は、どのようにして編まれるのでしょうか。市史ができるまでの流れを紹介。編さん作業の現場では、市民の皆さんが大活躍しています！

10年計画です！

市史編さん事業は、遠野南部氏が八戸から遠野に所替えしてちょうど400年の節目となる平成39年までに、▽現代編▽通史編▽民俗編▽資料編の全4編を刊行する計画です(下図参照)。遠野文化研究センターに、有識者らで組織する「市史編さん委員会」を中心とした組織体制を構築。約10年にわたる編さん作業がスタートしています。

編さんの流れ

編さん作業は▽方針検討▽資料収集▽調査解読▽編集作業の4つの工程で進められます。まず、市史編さん委員会を通し、これまでの歴史的な出来事から、特に重要なもの、後世に残すべきものを選定し、調査方法を決定します。

次は、その方針にもとづき、資料を収集。所有者の許可を得て資料を博物館に持ち帰って調査したり、持ち出しできない貴重なものは、その場で撮影し、画像データとして収集します。集めた資料は、年代や内容ごとに分類し、調査研究員が解読や調査を実施。その資料をていねいにまとめ、市史を編集していきます。

解読や調査する資料はまさに膨大。とても、専門家や市職員だけでは手に負えません。そこで活躍しているのが、市民ボランティアの皆さん。遠野の歴史や古文書の読み方などを勉強しながら、一緒に編さん作業に取り組んでいます。

資料です。また、あなたが祖父や両親から口伝えに伝承された民話や昔の暮らしぶりなども、重要な資料となります。歴史的に貴重な資料となり得る、遠野の宝が、あなたの周りに埋もれているかもしれません。今、資料の喪失が問題となっています。貴重な資料を廃棄してしまったり、語り手がいなくなったり、遠野の宝が失われつつあります。ごんなの、資料にならねえべ...と捨てる前に、まずはご連絡ください。遠野の歴史を後世に引き継ぐため、一丸となって市史編さんに取り組みましょう。

お宝、ありませんか？
このとおり、市史の編さんには、遠野の歴史に関する資料が必要です。古文書や遺跡などの遺物はもちろんのこと、例えば、昔の日記や生活ぶりを写した写真、土地売買の証文のような筆で書かれた書物などは歴史的なお宝、ありませんか？



★「役割」は、上図の①～④に連動しています！

組織体制

市史編さん委員会

学識経験者や有識者で構成されていて、市史のまとめ内容や方針を決定する

役割... ①

市史編さん調査研究員

遠野の歴史に関心がある市民、有識者から構成し、郷土資料の調査・収集・整理を行う

役割... ②③

市史編さんボランティア

郷土資料整理ボランティア	古文書整理ボランティア
現代語で書かれた郷土資料をパソコンに入力し、データとして資料を残す	古文書の原本を見ながら、書かれている内容などのリストを作成する

役割... ③

市史編さん室

遠野文化研究センター市史編さん室が、市史編さんに関する事務作業を行う

役割... ①②③④

ボランティアも活躍してます！



古いものを見つけたら、
まずは電話を！



- ・昔の日記
- ・当時の生活ぶりが分かる古い写真や絵
- ・土地売買の証文のようなもの
- ・筆で書かれた書物 など

これらは、市史編さんの貴重な資料になる可能性があります！ 自宅の倉庫や蔵などから見つけた際は、下記までご連絡ください！

ボランティア募集中！

資料整理を手伝ってくれるボランティアを募集しています。遠野の歴史に触れ、新たな発見につながる作業です。興味のある人は、下記まで問い合わせください。

■活動内容

現代語の資料をパソコンに入力、古文書原本を見ながらリストの作成 など

■活動場所

市立図書館または自宅

■問い合わせ

遠野市文化研究センター
市史編さん室(☎60-2800)

皆さんのご協力、
よろしくお願いいたします。



キーパーソンに聞きました。

未来の遠野人へ、
残したいものがある。

10年後には南部氏入部から400年の節目を迎えます。この10年は歴史の一つの区切り。未来を担う遠野人のために、歴史書として残す必要があります。以前の市史は内容的に難しく、文書自体も難解でしたが、新たな市史は学問的な言葉を減らし、教材として

使える市史を目指しています。人は年齢を重ねると、自分のルーツを知りたいと思う時が来ます。歴史を残すことで、それを知る機会になればと思います。



市史編さん委員長
大橋 進 さん



遠野文化研究センター
市史編さん室
小向 孝子 室長

市民が目線の市史に。
市民が編む、市民が目線の市史に。
前回の市史から40年以上が経ち、その間の歴史やそれ以降に新たに分かったことなどをまとめる必要があります。特に、今回は遠野南部家から全面協力をいただき、貴重な資料を調査しています。市民が読みたくなるような市史にするには、市民の皆さんに資料提供や編さん作業などに参画していただくことが大切。編さん事業が、市民の皆さんにとって遠野の歴史に興味を持つきっかけになればうれしいですね。

ことが私たちの役割であり、後の遠野に生きる人の誇りと自信にもつながります。歴史を知り、後世に伝えることは、知識だけでなく、その土地に住む人の郷土に対する理解と愛着を深めることにもつながります。そのためにも、読んでもらえる市史を作る必要があります。行政や専門家だけでなく、多くの市民が携わり、市民目線で編さんできれば、より身近な市史になるはず。『遠野とは？』と聞かれたとき、私たち自身が、誇りを持って郷土について語ることができるように、一緒に学び、一緒に遠野の歴史を編んでいきましょう。

各種講座展開中

市史編さんをはじめ、遠野の歴史や文化に興味を持ってもらうため、遠野文化研究センターは、さまざまな講座を開催しています。講座参加者の中から、たくさんのボランティアも生まれています！



市史編さん講座



古文書講座

講座の情報は、
広報遠野などで
お知らせします！



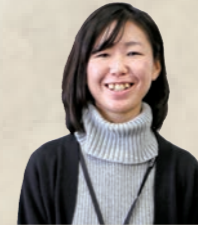
参加者に聞きました。



古文書講座受講者
菊池 広樹 さん
37歳=宮守町下鱈沢=

古文書が面白い！

古文書講座に去年の秋から参加しています。以前は全く読めませんでしたが、簡単なものであれば解読できるようになり、楽しくなってきました。家の蔵で古文書を見つけたので、それを読めるようになるのが目標です。



市文化課臨時職員
高橋 唯 さん
25歳=盛岡市在住=

歴史仲間、集まれ！

大河ドラマがきっかけで、古文書に興味を持ちました。古文書を読む機会がほしいと思っていて、ボランティアとして参加。今は職員として古文書を解読しています。編さん作業を通して、歴史仲間が増えればうれしいです。



古文書整理ボランティア
菊池 秀男 さん
59歳=上組町=

新たな発見が楽しい！

古文書の分類・解読・再調査をしています。作業では新たな発見や歴史的背景を知ることができるだけでなく、古文書に興味がある者同士で情報交換などもできます。その中から新たな気づきが生まれるので、毎回とても楽しく、やりがいがあります。



市史編さんは、市民の皆さんの協力が必要不可欠。「歴史を編む」という過程に、多くの人が携わり、郷土愛を深めてもらうことが目標です。

歴史を残すこと

外国人観光客の増大や人口減少など、遠野の人々の暮らしも大きく変化し、新たな時代を迎えようとしています。人は新たに進むべき道を決めるとき、歴史を紐解こうとします。

東日本大震災でも、100年前の三陸大津波で支援を行った歴史が、全国から注目された後方支援活動を生み出した。大きな決断をするとき、人は、背中を押してくれる歴史的な裏付けが必要なのです。今、遠野の歴史を残すということは、後の遠野人が未来を切り開くための礎となるはず。遠野には、豊かな歴史と文化が残されています。これらを市史として後世に引き継ぐ

歴史を身近に

